

26Q-am01S

インドネシアで採集した海綿 *Lamellodysidea herbacea* より得られた新規セステルペンの構造

○鳥井 万純¹, 加藤 光¹, 人羅 勇氣¹, 塚本 佐知子¹ (熊本大院薬)

【目的】 これまでに、多様な生物活性や特異な構造を有するテルペンが多く報告されている。今回、インドネシアで採集した海綿 *L. herbacea* のエキスに抗菌活性および細胞毒性がみられたので、成分探索を行った。

【方法】 海綿 *L. herbacea* (湿重量 52 g) のアルコール抽出物を EtOAc と H₂O で分配後、EtOAc 層をさらに *n*-Hexane と 90% MeOH-H₂O で分配し、H₂O 層は *n*-BuOH で抽出した。得られた 90% MeOH-H₂O 層および *n*-BuOH 層を各種カラムクロマトグラフィーにより精製し、得られた化合物について生物活性を評価した。

【結果および考察】 90% MeOH-H₂O 層および *n*-BuOH 層から既知の *o*-methyl nakafuran-8-lactone (**1**)¹⁾ と新規化合物 **2** および **3** が得られた。化合物 **2** の構造は既知の spirolingshuiolide

(**4**)²⁾ と類似しているが、3 位と 12 位が直接結合して新たな環を形成している点が異なる。また、化合物 **3** は **1** の γ -ラクトン環にグリシンが挿入された構造と考えられる。化合物 **2** および **3** が有する多環性骨格は、本研究で初めて見出された。今後、生物活性を評価する予定である。

【参考文献】 1) Shao, Z.-Y. *et al. J. Asian Nat. Prod. Res.*, **2006**, *8*, 223-227.
2) Huang, X.-C. *et al. J. Nat. Prod.*, **2008**, *71*, 1399-1403.

